湖風陸風

認知症徘徊 スマホ捜索

守山市 実証実験

専用アプリ 若年層への啓発必要

帽子や靴に小型発信器 半径45メートル内で感知

認知症による徘徊で高齢者が行方不明になるのを防ごうと、守山市は29日、実証実験中の見守りシステムの稼働訓練を実施した。近距離無線通信「ブルートゥース」を活用し、高齢者が持つ小型電波発信器（ビーコン）を、周囲のスマートフォンの専用アプリで感知、居場所を特定する仕組み。従来の全地球測位システム（GPS）端末よりも普及が期待されている。徘徊対策の最前線を取材した。（北瀬太一）

「うちのおばあちゃんがいなくなりました」「警察に届け出はしていますか」「どんな服装ですか」

訓練は、同市水保町の速野会館を拠点に市職員や地元住民ら約30人が参加。ビーコンを身に付けた職員2人が高齢者役となり、同会館に設けた仮設本部に行方不明の連絡が届くと、緊張感が漂った。

ただちに見守りシステムが起動。捜索役の職員がスマホの専用アプリを持って高齢者役に近づくと、本部にあるパソコンの地図上に居場所を示す目印が赤く点灯した。

同市は約10年前から、GPS端末を貸与する見守り活動を行ってきた。だが、「端末が大きくて不便」「週1回程度の充電を忘れる」といった声が多く、2015年度の貸与数も7人と普及しなかった。

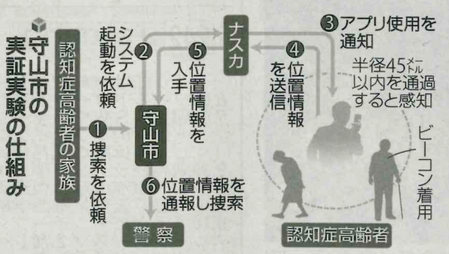
そこで目をつけたのが、最新の近距離無線通信。ビーコンは500円硬貨大で重さも4グラムと軽く、電池1個で2年近く動く。約50メートルもあるGPS端末よりも持ち歩きが便利なため、1月から認知症の家族がいる5世帯にビーコンを配布し、3か月間の予定で実証実験を行ってきた。

市は、この日の訓練を含む実験の報告書をまとめ、来月以降の実用化を検討する。

県警によると、県内では昨年、認知症の疑いがある高齢者の捜索の届け出は112件。11年以降、毎年100件を超えている。

守山市地域包括支援センターの池田初美所長は「スマホを使う若い世代に認知症について知ってもらうため、企業向けの啓発講座などを積極的に開く必要がある」とした上で、「現在は市独自の取り組みだが、湖南4市、県全域と広げていきたい」と話している。

専用アプリについて住民らに説明するナスカの井上社長（左、守山市で）



守山市が実証実験に取り組むシステムは、栗東市のIT企業「ナスカ」が国や県の補助金を得て開発した。

認知症高齢者の家族らから「行方不明になった」との連絡＝❶＝を受けた守山市が、システムの起動をナスカに依頼＝❷＝。ナスカは街中にいる住民のスマホにメッセージを送信し、アプリを起動してもらう＝❸＝。高齢者が半径45メートル以内にいた場合、そのスマホから位置情報がナスカに送られる＝❹＝。市はパソコンで位置情報を逐次確認、入手し＝❺＝、警察などに伝えて＝❻＝、高齢者を発見、保護してもらう。

ビーコンは、高齢者が外出時に身に付ける帽子やつえ、靴などに装着する。課題は発見の精度を上げるため、スマホにアプリを取り込む利用者増だ。

ナスカによると、現在、アプリの利用者は県内を中心に約900人。市はタクシーの運転手やコンビニエンスストアの従業員らに活用を呼びかけている。

ナスカの井上昌宏社長は「気軽に捜索に参加できることを知ってもらいたい」と語る。

専用アプリ「みつけて・net」はホームページ（http://www.mitukete.net/）からダウンロードできる。

地域一体で見守り

介護の家族「安心」

グループホームの近所を散歩する認知症の女性（左、守山市で）

守山市の実証実験に協力している認知症の女性（81）は、これまでも徘徊を繰り返し、家族は介護疲れで限界まで追い詰められたという。女性の長女（53）は「住民の方々と助け合うことが重要だと考え、実験に参加した」と新たなシステムに期待を寄せる。

女性に、買った物を忘れるなどの症状が現れ始めたのは約6年前のことだった。女性の実母が亡くなったことが引き金になったとみられる。その後、電話番号や住所、日付を思い出せなくなるなど、年々症状が重くなり、可愛がっていた孫2人の顔すら分からなくなった。

長女は「子どもが好きで優しい人でした。昔と変わって寂しいという思いはあるが、病気だから仕方がないと受け入れるようにしている」と心情を吐露する。

昨年11月、同市水保町の自宅から外出したまま、行方が分からなくなった。長女は町内会の掃除に参加していて不在で、女性の夫（85）も家を抜け出したのに気が付かなかった。

警察官や地域住民らで捜し回った末、約7時間後に隣接の野洲市内の歩道で、歩き疲れて座り込んでいるところを保護された。

徘徊が始まったのは昨年から。11月の事案も含めて計3回にのぼる。その度に捜索のため警察官や地域の人々に助けてもらった。夫は「他人に迷惑をかけるくらいなら、もう捜さなくてよい」と、長女に漏らすほど悩んでいる様子だったという。

「父は『自分が面倒を見ないといけない』という思いが強い」と長女。「介護疲れによる事件のニュースを見て、『気持ちが分かる』と話していた」と打ち明ける。

介護を続けてきた家族は悩んだあげく、今年1月下旬、ようやく空きが出たグループホームに女性を入居させた。施設でも外出時に使う靴にはビーコンを付けており、万が一の際には機能する仕組みができている。

不明防止策 各自治体で

近距離無線通信技術を活用した徘徊対策は、全国の自治体でも広がりを見せている。

大分県臼杵市は、昨年12月から高齢者約80人にビーコンを配布した。市内の公民館や駅、交差点など約80か所に電波を受信する機器を設置し、緊急時の捜索に役立てるという。

これまでに行方不明者は出ていないが、市の担当者は「高齢者の行動範囲が履歴として残るため、普段頻繁に利用する道が地図上に太い線で示される。捜索時には、初動を誤らずに適切な指示ができると考えている」と話す。

京都府長岡京市でも2月から、ビーコン200個を準備し、高齢者らに2年間無料で貸し出している。市内18か所に設置された受信機やスマホの専用アプリを活用することで、早期発見につなげる。

同市では2014年に、認知症の高齢者が山林に迷い込み死亡する事故も起きており、市の担当者は「市民それぞれに認知症への興味を持ってもらい、地域が一体となって見守りができたら」と期待している。

「安心感はあるが、スマホを持つ地域の方々に迷惑をかけるので、後ろめたさもある」と長女。今なお期待と不安が入り交じる。

10月に策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を担当する「政策推進室」

福祉施策を推進する新しい地域包括支援体制の構築を目指し、「福祉支援課」を「くらし支援課」に改めた。

武彦▽議会事務局長（監査委員事務局長）森脇啓充▽教育総務部長（議会事務局長）橋本武美▽消防長（消防次長）笠原米和

土木課長）松田博文▽高島支所長（市民生活部次長兼市民協働課長）和田通▽環境部次長兼環境政策課長兼斎場所長（保険年

部次長兼土木課長（国県事業対策室長）森本正則▽土木上下水道部次長兼上下水道課長（朽木支所長兼朽木診療所事務長）岡

夕（消防総務課長）消防次長北川繁▽消防次長兼北部消防署長（通信指令課長）吉里定晴◇退職（31日）総務部長　古谷傳平▽市民生

課長事務
権政策課
▽総務部
扱・財政
部次長兼
取扱兼山
（山東自
自治セン
部次長兼
設課長）
兼生涯学
図書館長
わ館長（子
雄
◇退職
▽健康
▽経済環
管理者
部次長兼
兼米原市
林誠

【大津市
2▽吉野茶
場日桜里
本堅田6
▽山田采
月＝梅林1
こな＝川瀬
高宮町▽
田歩空＝松
村優杏＝大
東町▽浦島
島咲＝高田
町雨森▽文
山【近江八
中小森町▽
園部紗由＝

こんにち

天気

花粉情報

委は29日、現
書訓告など
一方、女子
触ったとして
略式命令を受
の井上武紀教
市立瀬田北中
危険ドラッグ
として起訴さ
被告（51）を
た。
万引きをし
彦根工高の男
無免許運転な
で東近江市立
性教諭（49）は
2人は依願退
また、保存
告書を11年間
らなかったた
化財保護課
（51）を減給10